

第13回デイサービスセンターかおり 運営推進会議 議事録

日時： 令和5年2月16日木曜日 18時～19時半
場所： デイサービスセンターかおり
テーマ： コロナクラスター ～そのとき私たちは～
参加者： 松前町保険課職員1名・松前町地域包括支援センター職員1名・
他事業所職員等7名・利用者家族2名・事業所職員19名 合計30名

1. 開会の挨拶 Dr 盛次診療所 堀部 優香里

昨年夏にデイケアかおりの家で大規模クラスターが発生しました。その際にかおりの全スタッフが一致団結して困難を乗り越えました。
さっそくですが、コロナクラスター発生時の様子を寸劇形式でお伝えいたします。
スタッフの渾身の演技をお楽しみください。

2. 当施設で起きたコロナクラスター発生時の状況を寸劇方式で発表。

～寸劇のあらすじ～

コロナ陽性になったスタッフが陽性になった利用者さんをケアする「陽陽介護」の中で、野戦病院と化したかおりの中で起きるスタッフ間の葛藤、利用者さんを亡くしてしまった無念さなどを生々しく再現。

最後にコロナクラスターを経た経験から導かれた、コロナ発症時の対策を盛次ドクターから説明。





～寸劇の演者による当時に振り返った感想～

田中：自分はデイサービスの相談員で、8/23に陽性になってから、この日まで職場に泊まり込み、日中の陽性者訪問や、夜勤対応のお手伝いをした。他の陽性スタッフは、喉の痛みや倦怠感、不眠症状など、身体が悲鳴をあげながらも、朝から夜遅くまで陽性利用者の介護にあたってくれていた。一番元気な自分が、誰よりも率先して動き回ろうという気持ちで、陽性利用者の介護のお手伝いや、現場への指示出し、電話越しではありますが、自分が勤めているデイサービスの相談業務もこなした。
そんな中、昼食と夕食のデリバリー担当になり、少しでも美味しい食事を提供して、毎日のスタッフの頑張りに応えたい気持ちでいた。

山宮：自分が感染した時には、他のスタッフの体調は快方に向かっていたため、夜勤明けに他のスタッフが出勤した時、自分は身体のしんどさもあり、皆がとても頑張っているすごいと感じた。また、食欲低下していたため、皆が美味しそうにご飯を食べているのがうらやましかった。

三原：コロナを発症して、10日。やっと、休める。心が疲れた。自分の家族に感染していなかったことが、一番安心した。家族にも10日間あってない。前日にぐっすり眠れると思っていたが、不眠症状あり、眠れず。いわゆる、後遺症？だるさも抜けず、ただ、目を閉じていただけだった。

二宮：クラスターが発生してはじめての3日間くらいが本当にしんどかった。ケアをするスタッフは症状から動けなくなり、ケアを必要とする利用者さんは増えていったからだ。自分の立場、責任からスタッフの負担を考慮して、みんながしんどいときに働いて、みなさんの症状が落ち着いたところに休ませてもらう方法をとった。
本当にしんどい状況だったが、陰性者を受け入れてくれたデイのスタッフや協力してくださったヘルパーステーション日和さんからの応援の差し入れが本当にうれしかった。

有希：まだ全部の問題は解決していないが、大きな収穫もあった。
家族さんとの信頼関係の構築である。特にAさんの息子さんは、今回のコロナ感染で、もし入院をさせていたら母は死んでいただろう。陽性者の皆さんが陽性者の母をデイに連れて行ってきてくれば、やはり死んでいたかもしれない。毎日のデイがいかにか有効か、痛感した。できるだけ最期まで家でのみてあげたいから、家で必要なサービスを入れようと思う、と言われて、それまで躊躇していた住宅改修を決行することになった。以降、自宅での転倒がなくなった。他にも同様の家族がおられ、そういう家族との信頼関係が、一番有効だった。

～ゲストからの感想～

他事業所の方より

- ・感染しても一致団結して乗り換えられたのがすごい。
- ・自分だけでなく、事業所のスタッフ全員に観てもらいたかった。
- ・かおりの理念が大好きです。協力させてもらってよかったです。
- ・コロナになった時の準備、訓練がされているところがすばらしい。
- ・制度外のことをするのは革新的だと思った。制度外でも正しいことをされているのでこのような選択肢もあるのだなと思った。

ご家族より

- ・その当時の事を思い出して泣きそうになりながら観ました。
- ・うちの親は症状が軽い方で本当に良かった

3、理事長 盛次義隆からコロナ発症時の対策の説明と閉会の挨拶

オミクロン株のコロナの特徴はデルタ株以前とは違う。

- ①肺炎を引き起こさない。
- ②人工呼吸や ECMO は必要としない。
- ③咽頭炎と若年者に高熱。インフルエンザよりはまし。
- ④咽頭炎から超高齢者に対しては咽頭麻痺を起こす。

かおりではコロナに感染した人が相次いで誤嚥性肺炎を引き起こした。4 人の高齢者が肺炎になった。最初の人入院。寝ころんだまま食べていた人。2 番目の人は昼食を介助で食べていて嘔吐し、窒息した。3 番目、4 番目の人は自宅で。

どうして？共通点と相違点を考えた。

- ①超高齢者、全員 90 歳以上。
- ②寝たきり、または準寝たきり。
- ③春のクラスター時には肺炎にならなかった。
- ④喉の痛みや痰がへばりついた感じはコロナの特徴

それらから導かれた対応策

- ①絶食、抗生剤で肺炎を治療する。
- ②寝かせきりにしない。普通の生活にできるだけ早く戻す。
- ③摂食・嚥下訓練、口腔ケア・リハビリの実施

かおりではできる。しかし、入院医療ではできないと思います。入院させた方は助かるだろうかと心配でした。コロナにかかっても入院はせず、かおりでみんなで治します。みんなが早めにコロナにかかっていたら、早く終息するし、ヘルパーさんも早くかかればみんなでかかった方のケアができてたと思います。